



Data

監督・脚本: ポール・シュレイダー
出演: イーサン・ホーク/アマンダ・セイフライド/セドリック・カイルズ/ビクトリア・ヒル/フィリップ・エッティンガー

■ショートコメント■

◆この結末は一体ナニ? 牧師として運営してきたファースト・リフォーメド教会の「250周年記念式典」に自爆ベスト姿で臨んだトラー牧師(イーサン・ホーク)は、そこに参加しないはずのメアリー(アマンダ・セイフライド)の姿を見てビックリ! メアリーを巻き込むわけにはいかない! そう考えたトラーは、絶叫しながら自爆ベストを剥ぎ取ったうえ、今度は上半身に有刺鉄線を巻き付け始めたから、アレレ・・・。

◆準備の整った教会にトラーが登場しないことに会場がざわつきはじめたため、トラーをファースト・リフォーメド教会の牧師に推薦し、自らはメガチャーチ(巨大教会)のアバダント・ライフ教会の牧師をしているジェファーズ(セドリック・カイルズ)はトラーを探し回ったが、トラーは見つからない。そこで、式はやむなくトラー抜きで開始されたが、一人で苦悶するトラーの前に妊娠中のメアリーが登場。そして、2人はそこで何と・・・? こりゃ一体ナニ!?

中盤のハイライトとなる二人の“空中浮遊シーン”もある意味バカバカしかったが、このラストのクライマックスシーン(?)バカバカしさは問題外だ。そんな本作が「巨匠ポール・シュレイダーが再び、時代を射抜く! 構想50年の末に完成させた渾身作にして最高傑作」と呼ばれ、第91回アカデミー脚本賞にノミネートされたのは、一体なぜ? 私には、サッパリわからない。

◆アメリカは、イギリスやオランダからの入植者たちが築いた国。しかして、本作の舞台となるニューヨークにあるファースト・リフォーメド教会は、2017年の今年、250周年を迎えるというからすごい。父も自分も従軍牧師をしてきたというトラーはいかに

も勤勉そうな男だが、イラクに従軍牧師として行かせた息子が「大義なき戦争」によって死亡したことの“心の傷”を負ったままだった。そしてまた他方では、大企業からの献金でハデな教会運営をしているジェファーズに対する反発が日々強まっていた。

そんな中、信者のメアリーから環境保護活動に参加している夫マイケル（フィリップ・エッティンガー）がカナダで逮捕された後、大きく落ち込んでいるという悩みを聞き、マイケルの話を聞いているうちに・・・。

◆3月21日に観た『たちあがる女』（18年）では、主人公であるアイスランドの環境保護運動の女闘士はその信念にいささかの揺るぎも見せなかったが、本作のマイケルはメアリーのお腹から生まれてくる子供が33年後の2050年に自分と同じ位の年になった時、地球がボロボロになっていることを考えて、子供の出産にも躊躇しているらしい。そして、メアリーからの連絡で自宅のガレージに入ると、そこでは何と爆弾が装着された自爆テロのためのベストが発見されたからヤバイ。そして、その翌日マイケルからの「ウェストブルック公園で会おう。東口のレッドダイヤモンド遊歩道で」のメッセージに従って行ってみると、そこにはライフルで自分の頭を打ち抜いたマイケルの姿が。

これは一体なぜ？マイケルからはトラー宛の遺書が残されていたが、そこには一体ナニが？

◆今ドキ、ガンは不治の病ではなく、早期発見と適切な治療さえすれば治る病気だ。しかるに、トラーは血尿を出し、吐き気に悩み、動くだけでやっという日もありながら、病院での検査をサボっているから、アレレ・・・。息子のことで妻と離婚し、一人暮らしだからといって、今ドキこんなバカな牧師がいるの？

他方、アバンダント・ライフ教会の聖歌隊の女性エスター（ビクトリア・ヒル）は何かとトラーのことが気になっているようだが、メアリーには何かと優しいトラーも、このエスターに対してはいかにも冷たいから、アレレ。後半には、「迷惑だ。君を見ると、自分の失敗を思い出す。君の望みは一生かなわない。君を軽蔑している。君は邪魔だ。」とまで罵っていたが、これは如何なもの・・・？さらに、トラーはマイケルの死亡後、次第に環境保護運動に同調し、教会の大口寄付者で250周年記念事業の支援者でもあるバルク社のエド・バルクに対しても反発を強めていったが、それも如何なもの？

◆宗教者として政治的立場はどうあるべきかは難しい問題。また、環境保護活動にどこまで同調するかも難しい問題。しかし、ガンによって自分の余命が短いとわかったため、半分ヤケ気味で自爆ベストを着て250周年記念式典で爆弾テロを実行！という筋書きはあまりにも短絡的だ。

そんなこんな緊張感の中でクライマックスに向かうわけだが、そこでいきなりあんな

シーンになってジ・エンド・・・？こりゃ一体ナニ！新聞紙評では高評価もあるが、私にはサッパリ・・・。

2019（平成31）年4月18日記